

木をたくさん切ったら 森がなくなっちゃうの？

- 林業の仕事
- 森を守る仕事
- 家づくりの仕事

古河林業株式会社
 古河林業株式会社
<https://www.furukawa-ringyo.co.jp/>

木造住宅に欠かせない材木は、木を切って加工して作られます。木の家をたくさん作ったら、日本中の森がなくなってしまうのでしょうか。林業と住宅業の長い歴史をもつ古河林業に聞いてみました。

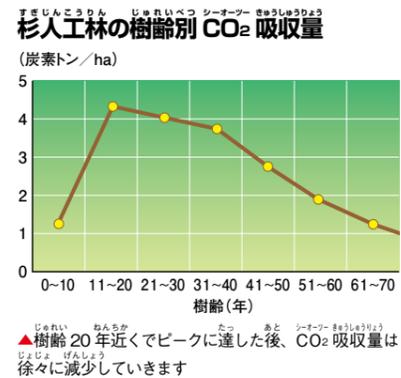
A 木を切ることと森を守ること——
 相反するように見える二つはつながっているよ。

大切なのは「森林再生サイクル」



日本の国土面積は3779万ha、そのうち森林が占める面積は約3分の2です。この割合を森林率と呼び、先進国(OECD諸国)のなかではフィンランドに次ぐ世界第2位の高さです。

森林は地球温暖化の原因といわれる二酸化炭素(CO₂)を吸収してくれますが、樹齢60年を超えた木々はほとんど吸収しなくなります。適齢期を過ぎた木は切り、計画的に若い苗木を植える。こうしたことで森が活性化し、温暖化抑制にもつながるのです。



木を切る現場は安全第一

木を切る現場では安全面で十分な注意が必要です。木を倒す方向、上方や足元に危険はないか、どの道具を使うかなど、念入りに準備をします。

高性能な特殊車両の登場によって、林業の機械化は大きく進みました。



▶立木を切り倒して、枝を払い、丸太にして運ぶ。いくつもの作業をこなす林業機械もあります

チェーンソー



とはいえ、車両が入れない狭い場所で活躍するのはチェーンソーです。刃のついたチェーンをガソリンエンジンで高速回転させて木を切ります。



▲チェーンソーを使うには、「チェーンソー作業者」の資格が必要です

工場で丸太から材木へ

国産の木のなかでも家づくりに適しているのは「秋田杉」「伊勢ヒノキ」「北海道・岩手産カラマツ」などです。古河林業では、秋田県、宮城県、三重県に広大な森を持ち、優良な木を育てています。従来の家づくりでは大工さんが図面をもとに木材を加工していました。木材を組み合わせるホゾや継ぎ手といった部分の精密さは手作業では難しいもの。そこで、秋田県に工場をつくり、コンピューターによる全自動加工のシステムを導入しました。職人技と経験が、最先端の技術により常に再現できるようになりました。



木を切ることが自然を守ることに繋がります

答えてくれた人 古河林業株式会社 七ヶ宿林業所 岡本 理さん



▲「わが家の大黒柱をゲット！」。山を案内し、お客さんに楽しんでいただく役割もあります

子どもの頃から自然が好きで、大学で林学を学びました。計画的に木を切るのは決して自然破壊ではありません。新たに植林を行い、森を健やかにし、一本一本の木を元気に育てるために必要な営みなのです。住まいの象徴ともいえる大黒柱をお客様に選んでいただく「大黒柱ツアー」の案内役も務め、最後は切り倒すところまでご覧いただけます。林業という仕事は、自分が植えた木を自ら切ることはできませんが、次の世代に引き継がれていく息の長い仕事です。

